

## 吹 奏 楽 部 ランチタイムコンサート

# 名高生を元気づける響き

## 3年部員は最後のステージ

6月23日の昼休み、名高東側中庭で吹奏楽部による「ランチタイム中庭コンサート」が開催された。当初は前日の22日に開催する予定だったが、降雨のため23日の開催となった。

このコンサートは、3月の定期演奏会、6月の高文連支部大会、8月の名寄地区吹奏楽コンクールなどの新型コロナウイルスによる

中止で、公に演奏する機会を失った吹奏楽部3年生の引退の場として開かれた。また、高体連、高野連、高文連の各種大会の中止、そして、名高祭などの行事の中止により変化のない生活を余儀なくされ、意気消沈している名高生を、明るいハーモニーとパフォーマンスで元気づけることも目的とされた。

本番までの練習も新型コロナウイルスの影響

で室内での合奏練習ができず、校舎裏テラスで実施。様々な困難を乗り越えてのステージとなった。

当日の3校時終了時に、岸川寛菜吹奏楽部長(3B)が放送で全校生徒に「コロナの影響で大会やコンクール、楽しみにしていた名高祭までも中止になってしまいました。そこで、私たち吹奏楽部は皆さんに少しでも元気になってもらうために、心を込めて全力で演奏します。吹奏楽部員も、聴いてくれる皆さんも、全員で楽しみましょう。お弁当を食べながらも、おしゃべりをしながらでもいいので、気軽に聴いてください」と呼び掛け。多くの生徒たちがその優しい言葉に耳を傾けていた。

昼休みには特別に避難階段を開放し、生徒



笑顔いっぱいのパフォーマンスでコンサートを盛り上げる吹奏楽部の皆さん



多くの名高生が集い吹奏楽部の演奏に元気をもらった(手前は岸川寛菜部長)

# 名寄高新聞

## 吹奏楽特集

北海道名寄高等学校新聞局

2020. 7. 14

発行責任者 伊藤 竜之介

第1979号(20-10)

が密にならずに鑑賞できる環境を用意した。吹奏楽部員が準備を進める中、開演時刻が迫ると多くの生徒が1階から3階までの中庭に面する窓や避難階段に集まり、コンサートを待ちわびた。

吹奏楽部員たちも密を避け、間隔をあけて整列。演奏は全て指揮者のいないアンサンブルで行われた。1

曲目は「名寄高校校歌」。生徒になじみ深い校歌で興味を引くとともに、名高生の一体感を高めた。

2曲目はOfficial 髭男 dismの「宿命」。初めにクラリネットやフルートが優しく落ち着いたメロディーを奏で、そこに次々と楽器が加わり盛り上がりを迎える。その後、トラ



心を込めて演奏する吹奏楽部の皆さん

ンペットとアルトサックスのソロを経て、再び盛り上がりを見せて曲を終了した。生徒たちは丁寧で息のあった演奏に魅了され、大きな拍手を送っていた。

3曲目は吹奏楽の定番曲でもある「宝島」。ドラムの演奏が始まると、部員たちがポンポンを使い生徒らに手拍子を促す。すると生徒

たちはそれに応え、手拍子で会場の雰囲気を高揚させた。部員たちはサンバ風の曲調にのせてサックスのソロや、トランペット、トロンボーン、パーカッションのソリ（パートを複数人で演奏すること）などで、会場を華やかに明るく盛り上げた。集



明るく調和されたハーモニーで名高生を魅了した吹奏楽部

まった生徒たちは楽しそうに手拍子をし、コロナの影響で沈みがちな学校生活から解放されたような笑顔を見せていた。コンサートは晴れやかに大きく盛り上がり終了。生徒たちは吹奏楽部の華麗で優しい演奏に心からの拍手を送っていた。

コンサートを聴いた橋場夢叶さん(3D)は「高体連も名高祭も中止となり変化が少なくなった学校生活に、今回のコンサートは大きなアクセントをつけてくれた。明るい気持ちとなり、前



コンサート終了直後、四方の名高生から万雷の拍手が沸き起こった

へ進もうという元気をもらった。コンサートを聴いて本当に良かったし、吹奏楽部には『ありがとう』と言いたい」と笑顔を見せた。

## 一生忘れられないコンサート 岸川 寛菜 部長

定期演奏会やコンクールが中止となり、演奏する場がなくなったが、何とか最後に吹奏楽部全員で演奏したいと考え、今回のコンサートを企画した。そして、同じように大会や行事の中止で元気をなくしている名高生たちに、元気を届けたいと思った。

コンサートには想定していたよりも多くの人に来ていただき、とてもありがたかった。おかげで一生忘れられないコンサートにすることができた。私たち3年生はもう引退してしまうが、これからも吹奏楽部の応援をよろしくお願いします。

## 今後もコンサート考える 山本 真平 顧問

新型コロナウィルスの影響で多くの演奏会が中止になってしまったが、できることをやりたいと考え今回のコンサートを開いた。コンサート終了後、感動で泣いている部員もいた。今だからこそ味わえる感動だ

ったと思う。

今後も状況や最新の研究を踏まえ、またコンサートを開催できないか考えていきたい。これからも今後のコンサートに向けて一生懸命練習していきたい。